

おしえて！ エス デ ィ ー ジ ー ズ S D G s



－ 持続可能なまちづくりのために －

地球上の誰一人として取り残さない持続可能な開発目標「SDGs」。
今月号では、ゴール(目標)9について紹介します。



9 産業と技術革新の基盤をつくろう

強靱なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る

ゴール9のターゲットは8項目あり、その中の1つに「すべての人々に持続可能かつ強靱(しなやかで強いこと)なインフラ(生活を支える基盤)を開発する」とあります。インフラを開発し整えることは、例えば、安全な水(ゴール6)が確保でき、健康(ゴール3)な暮らしにつながります。これにより日々の生活が安定すると、理想の

生活を実現するために働くことへの意欲がわいて、企業の生産性が上がる(ゴール8)とされています。

また情報通信網などの技術革新により、物理的に交通が整っていない地域でも、インターネットを活用して教育を受ける(ゴール4)ことができ、教育環境が充実することは、貧困(ゴール1)や飢餓(ゴール2)の解決につながるなど、技術革新が生み出すSDGsの連鎖は多岐にわたります。

私たちにできること

- ・生活の中に、どんな技術が利用されているのかを知る など

町の主要な事業との位置づけ

- ・農業6次産業化と発酵のまちづくり推進事業
- ・右支夏井川河川改修事業 など

第2回こおりやまSDGsアワード 小野高校が教育部門で受賞

こおりやまSDGsアワード表彰式が3月9日、郡山市役所で行われ、福島県立小野高等学校が教育部門で受賞しました。

この賞は、こおりやま広域圏内でのSDGsの理解・普及のため、特に優れた取り組みを行っている住民、団体、事業者等に対する表彰で、今回は一般部門5団体、教育部門4団体、ウィズ・コロナ特別部門1団体が受賞しました。

小野高校は、総合的な探求の時間「地域課題解決学習」で、地域住民と協働した取り組みや郷土理解学習、地域の一員としての自覚醸成と地域に貢献できる人材育成に関する取り組みが評価されたものです。このたびの受賞、誠にありがとうございます。



受賞団体代表の皆さん(小野高校：前列右)

こおりやま広域圏とは

人口減少・少子高齢化社会にあっても、活力ある地域経済を維持し、住民が安心して快適な暮らしを営むことができる圏域形成を目指すため、郡山市を中心市に近隣市町村で構成されている組織です。

構成市町村：郡山市、須賀川市、二本松市、田村市、本宮市、大玉村、鏡石町、天栄村、猪苗代町、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町、三春町、小野町(16市町村)